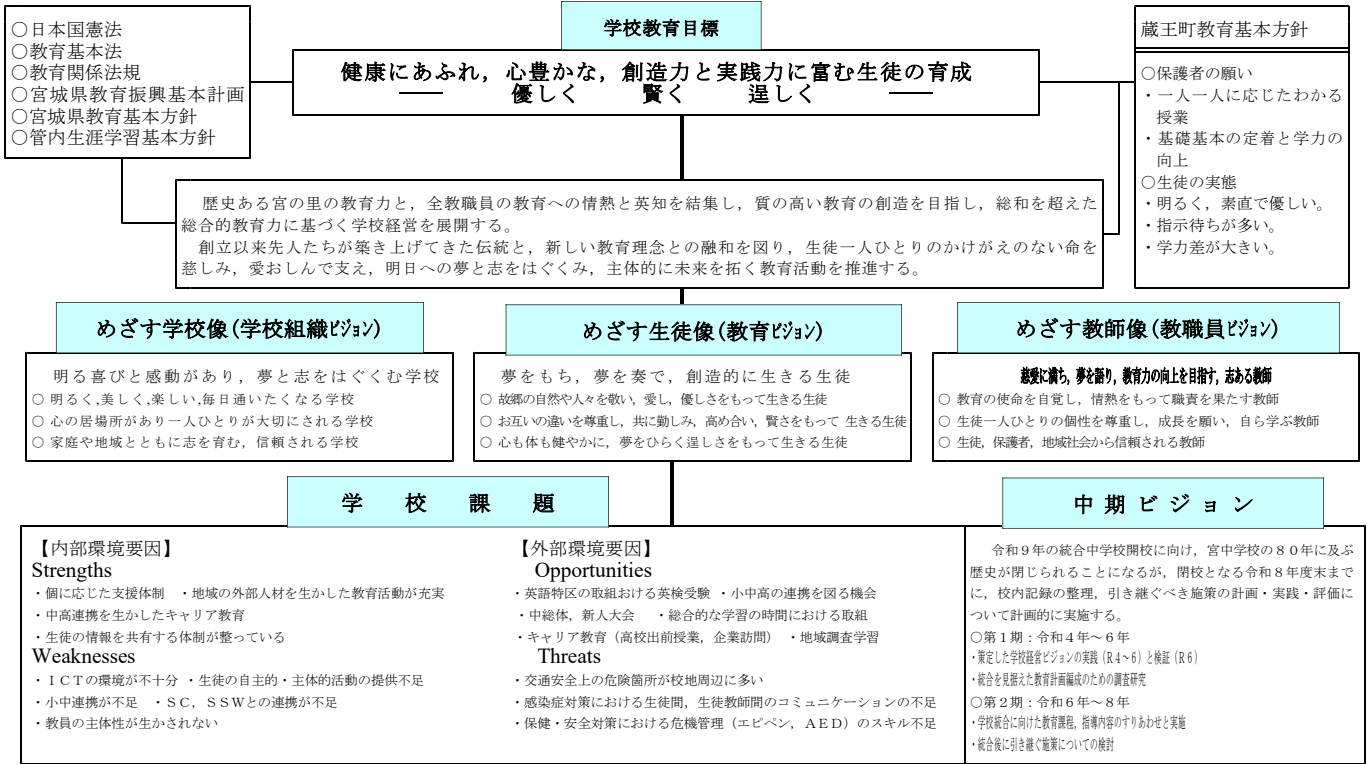


学校経営ビジョン構想図



令和4年度 学校経営方針

- 1 生徒の個性が尊重され、心の居場所があり、自己有用感をはぐむ学級・学年、学校づくりを推進する。
○生徒・・・「明るい挨拶と返事」「爽やかな服装」「校歌を堂々と歌う」「人の話を聞く」「清掃に励む」(宮中生の"5つの基本型")
○教師・・・「師弟同行・率先垂範、わかる授業づくり。めりはりのある生徒指導(良さを認め伸ばす、ならぬはならぬ)」
- 2 教職員の資質や力量を高めるための研修やOJTを充実させ、教師力・授業力の向上を図り、確かな学力の定着に努める。
- 3 チーム宮中(教職員、保護者、地域の人々など関係者)で、学校の教育力の向上に努める。
- 4 歴史と伝統のある宮の里の教育力(人材・学習材)の活用を推進し、健やかな心身や社会性を育み、志をもった生徒を育てる。
- 5 保護者・家庭及び地域社会、関係諸機関との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。

経営目標

- 1 将来の目標をはぐむ志教育の推進
 - (1) 地域の学習材(人・もの・こと)を生かした志教育を推進する。
 - (2) 3年間を見通した志教育を通して、志教育の充実を図る。
 - (3) 自己実現と社会貢献という2つの視点を大切に志教育を推進する。
- 2 心の居場所がある学級・学校づくり
 - (1) 自己有用感や自己肯定感が高められる学級・学年経営に努める。
 - (2) 学級活動や短学活の工夫を通して、その充実に努める。
- 3 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長
 - (1) 指導過程(特別に50分)や教材の工夫を通して指導法を改善し、生徒同士が互いに学び合う授業など主体的・対話的で深い学びが行われるよう授業力を向上させる。
 - (2) 授業に関連づけた家庭学習の充実を通して、学びと学び方の習得を図る。
 - (3) わかる授業、楽しい授業にするため、生徒の耳に声を傾け、困りやつまずきの様相を把握し、授業改善を図る。
- 4 積極的な生徒指導の展開
 - (1) 教育相談の機能を充実させ、生徒の共感的理解に努めるとともに、SC・SSWと連携する体制を充実させ、生徒の不安や悩みを解消に向けた緩徐に寄り添う性と指導を推進する。
 - (2) 生徒活動(生徒会・PSC・学級・部活動)等による性と自治的活動の促進を通して、社会の担い手としての自覚を育てる。
 - (3) めりはりのある生徒指導(良さを認め伸ばす、ならぬはならぬ)を推進する。
- 5 感性豊かで逞しい心をもつ子どもの育成
 - (1) 他者の命を尊び、共に生きる心と態度をはぐむ体験学習に努める。
 - (2) 心燃えて歌うことや描くこと、創ることを通して感性と情操の涵養に努める。
- 6 健康な体づくりと安心・安全な生活の向上
 - (1) 口腔衛生・性・食・生活リズム・運動・感染症予防等、健康生活・食生活の指導に努める。
 - (2) 安心・安全な生活が校内・校外で送れるように、危機管理に努め、安全に対する意識の高揚を図る。
 - (3) あらゆる機会での生徒理解のための面談を通して、生徒個々の不安や悩みを共感的に理解し、生徒のメンタルヘルズに努める。
- 7 教職員の資質・力量の向上
 - (1) 外部講師による研修や校外の職務研修によって、職務遂行に必要な資質能力の向上に努める。
 - (2) 日常における自己研修やOJTによる資質能力の向上に努める。
- 8 開かれた学校づくりの推進の視点
 - (1) 保護者、地域社会、関係機関と共に健康教育、キャリア教育、食育、防災教育、健全育成事業等の協働推進に努める。
 - (2) 授業及び学校行事等の積極的公開、学校だよりや学校評価の分析結果の発信等、保護者、地域社会の期待と信頼に応える。
- 9 すべての生徒への学習機会の保証
 - (1) 生きづらさを抱えた生徒の、状況と不安を踏まえた支援の在り方の研究と実践を推進する。
 - (2) 不登校等、教室での学習が困難な生徒に対する学習機会の保証のため、「学び支援室」を活用した別室登校の充実、さおろ学びセンター「みらい」との連携を充実させる。
 - (3) ICT環境を活用したリモート授業、オンデマンドによる教材の充実、学習教材の開発を推進する。また、通信教育の手法による学習の研究と実践を推進する。

重点実践事項

- これまでの実践を大切に。次の事項について改善と充実に努める。
- 1 将来の目標をはぐむ志教育の推進
 - 3年間の系統性を大切に志教育を実践する。○事前・事後指導を通して、「将来の目標」を問い続ける。○社会貢献(奉仕)の視点を重視し、具体的な実践の場を設定する。
 - 2 心の居場所がある学級・学校づくり
 - 生徒委員会の機能を充実させ委員会活動の活性化を図る。○個性を尊重し、自分の価値を見出し、互いに認め合える学級・学年づくりを図る。○ソーシャルスキルトレーニングやサーシャントレーニングへの取組によりコミュニケーション能力を育む。○各種アンケートや面接を通して、生徒一人ひとりの理解を深め、生徒の情報を共有する体制の確立
 - 3 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長
 - 校内研究と関連付け、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善を行う。○ステップアップ学習(放課後学習)を活用した学習支援の充実を図る。○各教科での基礎学力の定着を図るための家庭学習の改善と充実を図る。
 - 4 積極的な生徒指導の展開
 - SC・SSWとの連携強化と、学期1回の教育相談日を設定する。○月毎に重点指導項目を設定し、「宮中生の基本型」の定着を図る。
 - 5 感性豊かで逞しい心をもつ子どもの育成
 - みやぎの先人集の活用と一斉道徳の授業(2学期授業参照)○道徳の時間の計画を経営案に綴じ、PDCAの中で充実を図る。○体験的学習における協働。
 - 6 健康な体づくりと安心・安全な生活の向上
 - 日常の体力機能向上に向けたランニングや体幹トレーニングの充実を図る。○同会による指導や歯磨きタイムの実践により口腔衛生指導の充実を図る。○地域の外部人材による防災講話の実践により、防災教育の充実を図る。○月1回の安全点検を通して、校内の危険箇所を共有するために、生徒とともに確認する。○生徒とハザードマップを作成、現地確認し、学校だより等で周知を図る。
 - 7 教職員の資質・力量の向上
 - 授業検討会(年3回)を含め、全員による授業実践を継続する。○「居場所のある学級づくり」に関する研修会を実施する。
 - 8 開かれた学校づくりの推進の視点
 - ゲストティーチャーの招聘や学校行事等の地域への積極的公開を推進する。○学校地域ボランティアの活用とHPによる情報発信と連携の充実に努める。○町教育委員会、町長部局とも連携を図り、地域の人事を活用する。○学校評価分析と改善案を学校だより、HP等で公表する。
 - 9 すべての生徒への学習機会の保証
 - 特別支援コーディネーター、養護教諭、不登校対策担当者を中心に、生徒の生きづらさの把握に向けた取組を行う。○不登校状況改善のステップとして、また、教室に居づらくなった生徒のよりどころとしての別室「学び支援室」を設置し、生徒個々の状況に応じた学びの機会を保障する。○ICT環境を生かし、リモートによる授業オンデマンドによる教材の作成を推進する。併せて、通信教育の手法(ICT機器を活用した課題・アンケートの推進、生徒個々の状況に応じた添削課題等)を用いた課題の在り方を研究し実践する。